

山王通はかつて笈瀬川と江川、堀川とを結ぶ三間杖筋という用水路でした。杖というのは水の出入りを調節する水門のことで、三間杖は現在の山王橋交差点付近にありました。近くに松平康久入道無三の屋敷があったことから、この辺りは無三殿あるいは無三戸ともよばれ、これが訛って「むさんど」となり、橋もむさんど橋とよばれるようになりました。

江戸時代、三間杖には不思議な力があり、ここで願い事をするとうまくない、願ほどの御礼として三月三日の雛祭りに草もちをお供えしたり、あるいは紙雛を流すと虫歯の痛みがなくなるといわれました。

三間杖の雛祭りの風習はいつしか忘れられてしまいましたが、その代わりにむさんど橋でおしりを見せると痔が治るといふ伝説が生まれました。この伝説は河童の化身であるすっぱんが痔をかみ切ってくれたことに由来し、むさんど橋から堀川へ白いおもちを投げ入れたり、巨石におもちをお供えしたりしたそうです。

時は移り、市電江川線改修工事のときに巨石が掘り出されました。この巨石がむさんどの神様として鹽竈神社で祀られるようになったのは昭和九年のことで、平成六年には河童姿の石像も建立されています。

また、笈瀬町の神明社にむさんど橋の橋柱が残っていますが、これは鹽竈神社からむさんどの神様を分祀したときに譲り受けたものです。また、神明社の祭殿の前には河童の化身のすっぱんの石像もあります。

神明社 (笈瀬町)



しんめいしゃ むさんどの きいでん かつば
神明社の無三殿の祭殿。河童の
けしん化身であるすっぽんの石像が写真
せきぞう しゃしん
ちゅうおう中央にあります。

神明社 (笈瀬町)



しんめいしゃ とりい よこ
神明社の鳥居の横にはむさんど
はし はしばしら
橋の橋柱があります。

塩竈神社 (西日置一丁目)



しおがまじんじゃ かつば せきぞう うし
塩竈神社の河童の石像。後ろには
きよせき おさき せきしつ
巨石を納めた石室があります。